

宮崎県感染症週報

■ 宮崎県第17週、第18週の発生動向

【17週】

定点からの報告総数は1,217人(定点あたり35.4)で前週比88%と減少した。

増加した主な疾患は手足口病と流行性耳下腺炎で、減少した主な疾患は感染性胃腸炎であった。

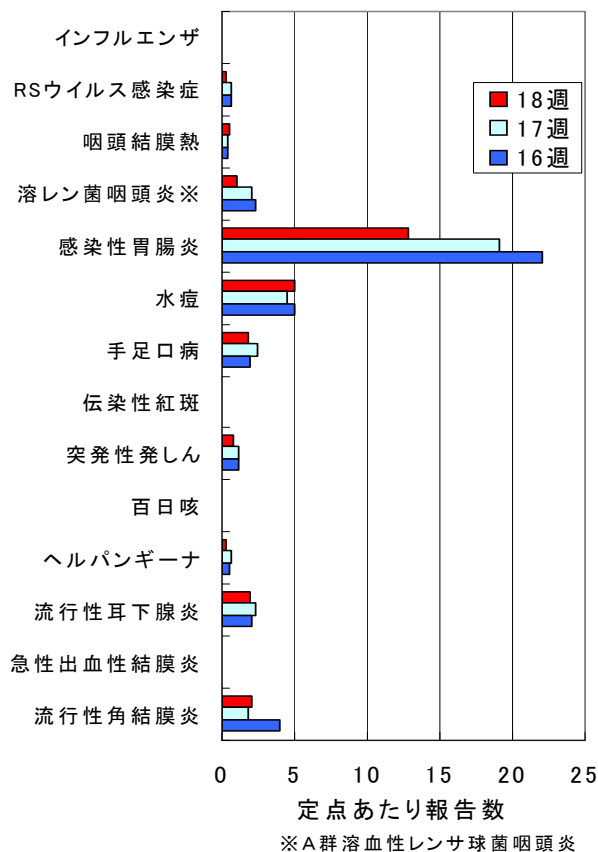
細菌性髄膜炎1人が宮崎市保健所から報告された。患者は2ヶ月の女兒。

【18週】

連休で医療機関が休みだった影響か、定点からの報告総数は882人(定点あたり26.2)で前週比74%と大幅に減少した。増加した主な疾患は水痘で、減少した主な疾患は感染性胃腸炎とA群溶血性レンサ球菌咽頭炎であった。

水痘の報告数は178人(4.9)で前週比111%と増加した。延岡(8.8)、日南(7.0)保健所からの報告が多く、警報レベルを超えている。年齢別では1歳から4歳で全体の約8割を占めた。

《前週との比較》



□ 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

【17週】

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年齢分布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
咽頭結膜熱	3	0.44	日南(3.0)	全て5歳以下の報告であった。
感染性胃腸炎	20	19.1	延岡(31.0)、小林(24.7)、 中央(24.0)、都城(20.8)	1歳~3歳で全体の約半数を占めた。
水痘	7	4.5	延岡(8.8)	1歳~4歳で全体の約7割を占めた。
手足口病	5	2.4	小林(15.3)	1歳~3歳で全体の約8割を占めた。
流行性耳下腺炎	6	2.3	延岡(11.5)、日向(6.5)	3歳~5歳で全体の約半数を占めた。

【18週】

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年 齢 分 布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
感染性胃腸炎	20	12.8	延岡(20.0)	1歳～3歳で全体の約半数を占めた。
水痘	7	4.9	延岡(8.8)、日南(7.0)	1歳～4歳で全体の約8割を占めた。
手足口病	5	1.8	小林(8.7)	1歳～3歳で全体の約8割を占めた。
流行性耳下腺炎	6	1.9	日向(10.8)	3歳～5歳で全体の約6割を占めた。

■ 全数把握対象疾患

【17週】

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 2 例が宮崎市保健所から報告された。
 - ・ 80 歳代の男性で肺結核。咳、呼吸困難がみられた。
 - ・ 70 歳代の男性で肺結核。咳、痰、発熱がみられた。
- 3 類感染症 : 腸管出血性大腸菌感染症 1 例が都城保健所から報告された。2 歳の女児で水様性下痢、血便がみられた。原因菌の血清型は O26 (VT1 産生)。
- 4 類感染症 : A 型肝炎 1 例が宮崎市保健所から報告された。30 歳代の女性で全身倦怠感、発熱、食欲不振、黄疸、肝腫大、肝機能異常がみられた。血清 IgM 抗体の検出。
- 5 類感染症 : 報告なし。

【18週】

- 1～5 類感染症 : 報告なし。

■ 病原体情報（衛生環境研究所 微生物部）

□ 細菌（平成 21 年 5 月 11 日までに分離同定）

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床診断名等	分離材料	分離同定日	衛研番号
腸管出血性大腸菌(O111:H21)	50代前半	女	2.17	無症状	便	2.18	10021
病原血清型大腸菌(O111:H21)	0～4	男	4.10		便	4.28	10508
腸管出血性大腸菌(O91:HUT, VT1)	60代前半	女	4.9	無症状	便	4.28	10024
<i>Salmonella</i> Enteritidis (O9:g,mr-)	50代後半	男	4.19		便	4.30	10509
腸管出血性大腸菌(O26:H11, VT1)	0～4	女	4.23	下痢、血便	便	5.7	10510

□ ウイルス（平成 21 年 5 月 11 日までに分離同定）

報告なし。

■ 全国第16週、第17週の発生動向

【16 週】

定点医療機関あたりの患者報告総数は 17.8 で、前週比 110%と増加した。増加した主な疾患は手足口病、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎で、減少した疾患はRSウイルス感染症と流行性耳下腺炎であった。

【17 週】

定点医療機関あたりの患者報告総数は 17.8 で、前週比 100%と横ばいであった。今週増加した主な疾患はヘルパンギーナと咽頭結膜熱で、減少した疾患は百日咳とRSウイルス感染症であった。

ヘルパンギーナの報告数は 640 人（0.22）で前週比 138%と増加した。地域別では熊本県（1.5）、高知県（1.4）、香川県（0.86）からの報告が多く、年齢別では1歳から4歳で全体の約8割を占めた。

咽頭結膜熱の報告数は 717 人（0.24）で前週比 120%と増加した。地域別では佐賀県（0.74）、新潟県・富山県（各 0.66）からの報告が多く、年齢別では1歳から4歳で全体の約7割を占めた。

□ 全数把握対象疾患

【16 週】

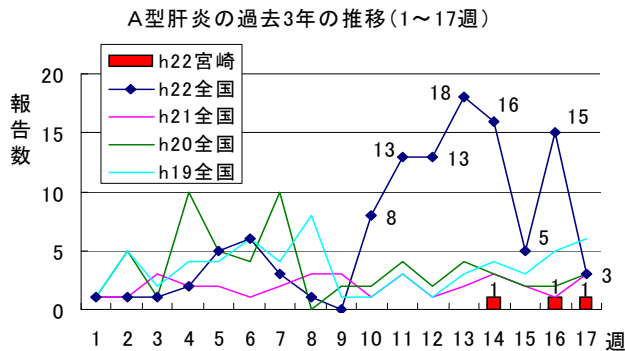
- 1 類感染症 : 報告なし
- 2 類感染症 : 結核 270 例
- 3 類感染症 : 細菌性赤痢 2 例、腸管出血性大腸菌感染症 13 例、腸チフス 1 例
- 4 類感染症 : A型肝炎 15 例、つつが虫病 1 例、デング熱 3 例、レジオネラ症 2 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 7 例、急性脳炎 2 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 3 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 4 例、後天性免疫不全症候群 12 例、ジアルジア症 1 例、梅毒 5 例、破傷風 1 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 例、風しん 6 例、麻しん 12 例

【17 週】

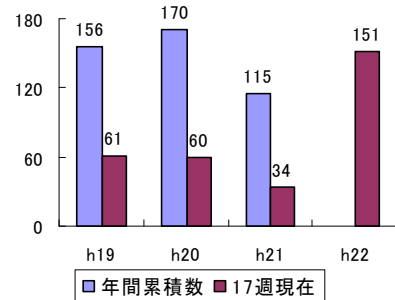
- 1 類感染症 : 報告なし
- 2 類感染症 : 結核 268 例
- 3 類感染症 : 細菌性赤痢 4 例、腸管出血性大腸菌感染症 15 例、腸チフス 2 例
- 4 類感染症 : A型肝炎 3 例、つつが虫病 4 例、日本紅斑熱 1 例、マラリア 1 例、レジオネラ症 11 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 10 例、ウイルス性肝炎 1 例、急性脳炎 3 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 2 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、後天性免疫不全症候群 12 例、ジアルジア症 5 例、梅毒 6 例、破傷風 1 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 例、風しん 1 例、麻しん 10 例

■ A型肝炎が増加

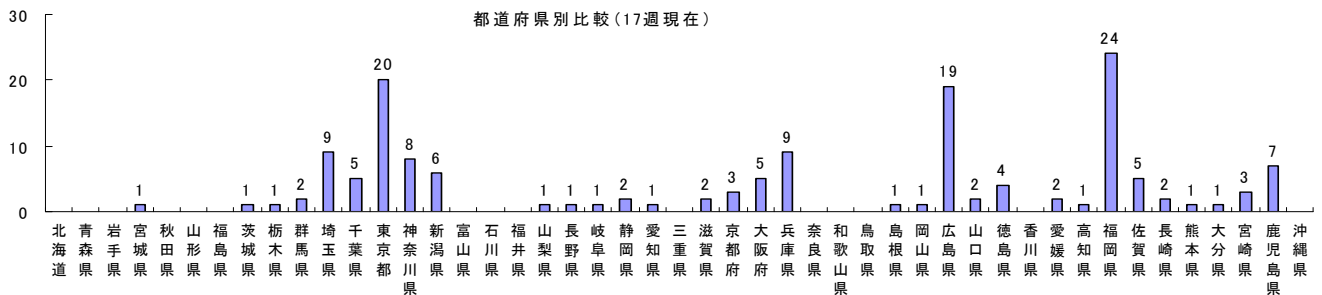
国立感染症研究所によるとA型肝炎罹患患者が3月以降全国的に増加していることが分かった。今回は広い範囲で集団発生が起きている可能性があるとして注意を喚起している。同症はA型肝炎ウイルスに汚染された水や食材を通じて感染し発症する。55歳未満では抗体（免疫）を持つ人が少なく、高齢者では重症化しやすいので予防のために魚介類の十分な加熱などの処置が望まれる。当県においても例年通年で1名くらいの患者数で推移していたが今年は今月初めで3名（内1名は外国での感染）になっている。



全国年間累積数と17週現在の累積数の比較



添付のグラフを見ると、患者は3月の上旬（10週）から増加し今月初めの17週までに全国で151名を数え、昨年の同期34名、昨年通年115名を大きく超えている。東京、広島、福岡などの大きな都市を中心に患者発生が多く見られる。現在の時点では原因食材としては「カキ」が半数近くを占めほとんどの例は国内での感染らしい。今後の患者数の推移に留意したい。



同症は、発熱、倦怠感、嘔吐、黄疸などの症状でかぜと紛らわしいことがある。特効薬はなく、通常は1~2ヶ月で回復するがまれに劇症化する。今回も患者の内1名は死亡している。しかし肝硬変や肝ガンに進行することはない。潜伏期間は2~7週と長い。予防としては、食品は85度以上で1分以上加熱する。調理器具や患者使用物の消毒は煮沸や次亜塩素酸ナトリウム（500~5000ppm）で行う。トイレの後、食事の前、料理を作るとき、オムツ替えの後、などには良く手を洗うことに留意する。症状などで心当りの場合は速やかに最寄りの医療機関の受診が望まれる。

医療機関におかれましては、患者発見の際は、遺伝子学的検査のために糞便などの検査材料が望まれており、保健所への届出と共に検査材料確保・提供に協力をいただきたい。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2010年 第17週(04月26日～05月02日)

疾病名		第16週	第17週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	5	6		1							5
	定点あたり	0.08	0.10	0.00	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.50
RSウイルス 感染症	報告数	23	22		2	14			6			
	定点あたり	0.64	0.61	0.00	0.33	3.50	0.00	0.00	1.50	0.00	0.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	14	16	1	3	2	9		1			
	定点あたり	0.39	0.44	0.10	0.50	0.50	3.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	85	75	15	5	30	7	1	9		4	4
	定点あたり	2.36	2.08	1.50	0.83	7.50	2.33	0.33	2.25	0.00	1.00	4.00
感染性胃腸炎	報告数	795	688	157	125	124	52	74	77	12	43	24
	定点あたり	22.08	19.11	15.70	20.83	31.00	17.33	24.67	19.25	12.00	10.75	24.00
水痘	報告数	178	161	48	27	35	11	13	9	1	15	2
	定点あたり	4.94	4.47	4.80	4.50	8.75	3.67	4.33	2.25	1.00	3.75	2.00
手足口病	報告数	67	87	27	5	2	1	46	2		4	
	定点あたり	1.86	2.42	2.70	0.83	0.50	0.33	15.33	0.50	0.00	1.00	0.00
伝染性紅斑	報告数	1	1	1								
	定点あたり	0.03	0.03	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	43	43	15	5	5	8	2	6		1	1
	定点あたり	1.19	1.19	1.50	0.83	1.25	2.67	0.67	1.50	0.00	0.25	1.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	18	23	2	6	9			2		4	
	定点あたり	0.50	0.64	0.20	1.00	2.25	0.00	0.00	0.50	0.00	1.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	74	83	3	4	46	1	2	1		26	
	定点あたり	2.06	2.31	0.30	0.67	11.50	0.33	0.67	0.25	0.00	6.50	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	24	11	6	4	1						
	定点あたり	4.00	1.83	2.00	2.00	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数		1	1								
	定点あたり	0.00	0.14	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数	1										
	定点あたり	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2010年第1週～17週)

2類感染症	結核	49例(2)			
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	9例(1)			
4類感染症	A型肝炎	3例(1)	つつが虫病	1例	レジオネラ症
	ウイルス性肝炎	6例	急性脳炎	4例	後天性免疫不全症候群
5類感染症	梅毒	4例	破傷風	2例	麻しん

()内は今週届出分、再掲

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2010年 第18週(05月03日～05月09日)

疾病名		第17週	第18週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	6										
	定点あたり	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	22	10		3	4			3			
	定点あたり	0.61	0.28	0.00	0.50	1.00	0.00	0.00	0.75	0.00	0.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	16	20	2	3	6	6		2		1	
	定点あたり	0.44	0.56	0.20	0.50	1.50	2.00	0.00	0.50	0.00	0.25	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	75	38	5	4	14	6	2			4	3
	定点あたり	2.08	1.06	0.50	0.67	3.50	2.00	0.67	0.00	0.00	1.00	3.00
感染性胃腸炎	報告数	688	460	101	79	80	46	49	32	10	47	16
	定点あたり	19.11	12.78	10.10	13.17	20.00	15.33	16.33	8.00	10.00	11.75	16.00
水痘	報告数	161	178	47	23	35	21	12	19		18	3
	定点あたり	4.47	4.94	4.70	3.83	8.75	7.00	4.00	4.75	0.00	4.50	3.00
手足口病	報告数	87	63	16	7	2	1	26	7		4	
	定点あたり	2.42	1.75	1.60	1.17	0.50	0.33	8.67	1.75	0.00	1.00	0.00
伝染性紅斑	報告数	1	1								1	
	定点あたり	0.03	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
突発性発しん	報告数	43	26	8	7	1	3	2	3		2	
	定点あたり	1.19	0.72	0.80	1.17	0.25	1.00	0.67	0.75	0.00	0.50	0.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	23	7	2	1	1			1		2	
	定点あたり	0.64	0.19	0.20	0.17	0.25	0.00	0.00	0.25	0.00	0.50	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	83	67	2	2	13		4	3		43	
	定点あたり	2.31	1.86	0.20	0.33	3.25	0.00	1.33	0.75	0.00	10.75	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	11	12	12								
	定点あたり	1.83	2.00	4.00	0.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数	1										
	定点あたり	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2010年第1週～18週)

2類感染症	結核	49例				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	9例				
4類感染症	A型肝炎	3例	つつが虫病	1例	レジオネラ症	1例
	ウイルス性肝炎	6例	急性脳炎	4例	後天性免疫不全症候群	1例
5類感染症	梅毒	4例	破傷風	2例	麻しん	1例

()内は今週届出分、再掲

こども感染症情報

みずぼうそうに注意しましょう。(4 月 26 日～5 月 9 日)

みずぼうそう（水痘）の報告が増えています。特に延岡市、日南市周辺で流行がみられ、警報レベルを超えています。4 歳以下の子どもたちが多く感染しています。

水ぼうそうに感染すると 37～39 度の熱が出て、それと同時に強いかゆみを伴った小さな水ぶくれが全身にできます。水ぶくれは 3～4 日たつと破れて乾き、黒いかさぶたになりかゆみもおさまってきます。気道を介して飛まつ感染するか、水ぶくれや粘膜の排出物から接触感染することによりうつります。人にうつる力が強いので、水ぶくれが完全にかさぶたになるまで、外出は控えましょう。この病気に直接効く薬はなく、かゆみを和らげる塗り薬や解熱剤が処方されます。かゆみが強いので子供はひっかきやすく、そのため細菌による感染をおこしやすくなります。爪を短くし、手をきれいにし 2 次感染を起こさないように注意しましょう。発疹に気づいたら、早めにかかりつけの医療機関を受診しましょう。

その他、感染性胃腸炎が延岡市周辺、手足口病が小林市周辺、おたふくかぜが日向市周辺で流行がみられ、警報レベルを超えています。石けんでの手洗い、うがいをし感染予防に努めましょう。